



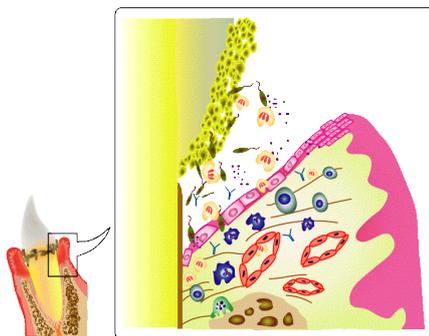
名城口腔 外科新聞

平成28年 12月号

口の中の細菌を減らし、インフルエンザを予防しましょう!!

インフルエンザの予防といえば①うがい・手洗い ②予防接種 ③マスクの着用ですよね。しかし近年、口の中の細菌を減らすことがインフルエンザの予防に有効である可能性が高いことが発表されました。今回はそのメカニズムについて説明します。

口腔内の細菌が出す酵素（プロテアーゼ、ノイラミナーゼ）が喉の粘膜を保護している層を破壊し、ウイルスを付着しやすくしている。

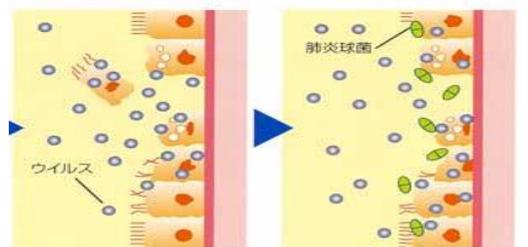


歯の汚れによって増えた細菌

口腔内細菌が出した
酵素

- ・プロテアーゼ
- ・ノイラミナーゼ

- ・ウイルスの粘膜付着の助長
- ・ウイルスの細胞侵入を助長
- ・毒素が炎症を拡大して感染を広げる



●かぜウイルスに感染

●細菌が2次的に感染する

細菌が出した酵素が喉の保護層を破壊し、ウイルスが粘膜に付着する

口の中を清潔に保ち、細菌数が減ることで、ウイルスの感染を促進する酵素の数も減少するため、インフルエンザの感染を防ぐことができます。



高齢者のインフルエンザ罹患後、肺炎の合併症などにより、予後が一般成人より悪いといわれています。

高齢者や様々な慢性疾患をもつなど、免疫力が低下している方は特に注意しましょう。

予防接種、手洗い・うがいや栄養のある食事をこころがけ、食べた後はしっかり歯磨きをして口腔内を清潔に保つように心掛けてくださいね!!

